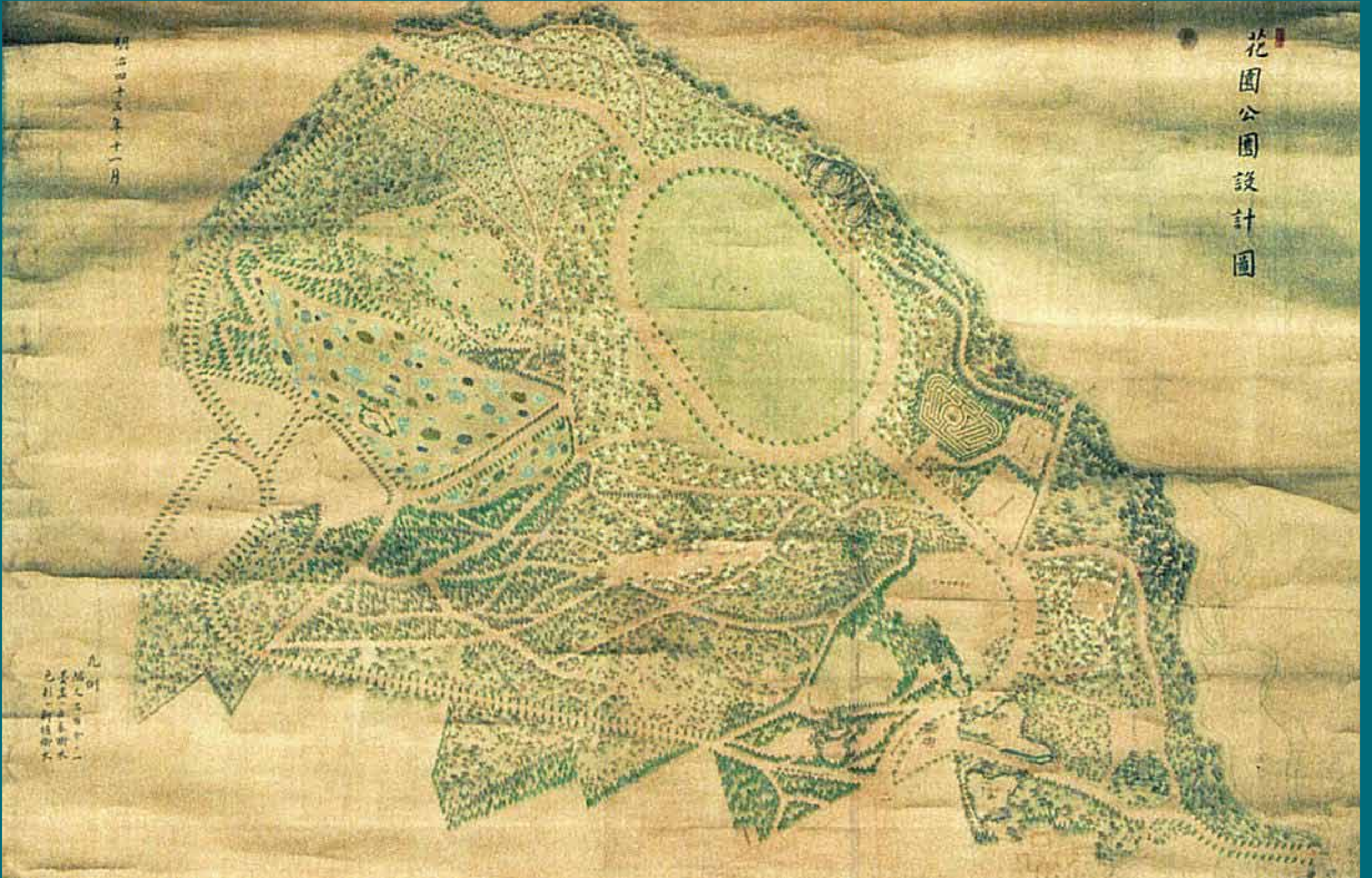
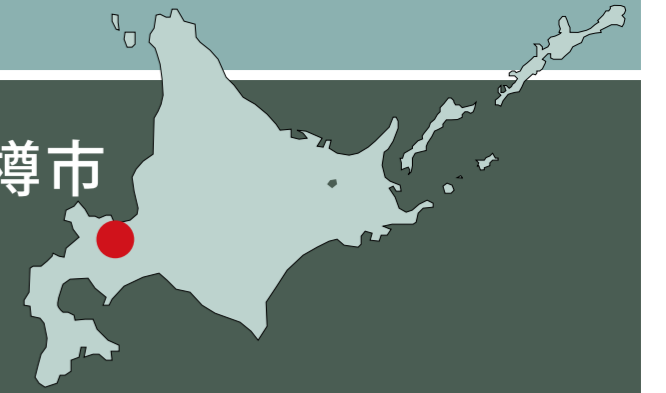


小樽公園 (小樽市)

小樽市



日本の公園創生期の特徴を今日に伝える

1900(明治33)年に開設された小樽公園(花園公園)は、将来の市街化を見越し、公園を都市の中心的空间とする明確な目的を持って計画された最も初期の例であり、日本の公園創生期の特徴を今に伝えている。

設計は、日本初の職業的公園設計家であった長岡安平である。そのレイアウトは公共施設を園路で結ぶという、現在の公園設計に共通したものである。

園内中央の丘には1924(大正13)年に市民から寄付された顕誠塔が建ち、道内唯一の屋外能楽堂と主園路で繋がれ、公園全体に秩序を与えている。植生は市民による植樹が中心だが、北側斜面には開拓以前からの原生林も現存する。

また小樽港に隣接する水天宮神社とは、一直線の道路で結ばれ、この両者が呈するヴィスタは、イタリアの歴史都市にみられるインテグラツィオーネ・シエニカ(景観の統合)を形成し、都市景観に調和をもたらしている。



公園内にある小樽市公会堂

概要

名称	小樽公園
所在地	小樽市花園5丁目
管理者	小樽市
規模	23.5ha
種別等	都市公園(総合公園)
開設年	1900(明治33)年
設計年	1910(明治43)年長岡安平の設計
告示年	1976(昭和51)年都市公園告示

園内には公会堂、市民会館、図書館なども設置されている